

第2章 西予市の文化財の概要と特徴

1. 指定等文化財の概要と特徴

西予市には、国指定・選定文化財6件、国選択文化財4件、国登録文化財10件、県指定文化財26件、市指定文化財205件があります（巻末資料3参照）。

表8 指定等文化財の件数（令和5年3月現在）

区分／種別		国				県	市	計	
		指定	選定	選択	登録				
有形文化財	建造物	1	—	—	10	0	44	55	
	美術工芸品	絵画	0	—	—	0	3	1	4
		彫刻	0	—	—	0	1	17	18
		工芸品	0	—	—	0	1	5	6
		書跡・典籍	1	—	—	0	0	6	7
		古文書	0	—	—	0	2	5	7
		考古資料	0	—	—	0	0	19	19
歴史資料	0	—	—	0	0	8	8		
無形文化財		0	—	1	0	0	1	2	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	—	—	0	2	15	17	
	無形の民俗文化財	0	—	3	0	5	32	40	
記念物	遺跡（史跡）	2	—	—	0	6	24	32	
	名勝地（名勝）	0	—	—		1	3	4	
	動物、植物、地質鉱物 （天然記念物）	0	—	—		5	24	29	
文化的景観		—	1	—	—	—	—	1	
伝統的建造物群		—	1	—	—	—	1	2	
文化財の保存技術		—	0	—	—	—	—	0	
計		4	2	4	10	26	205	251	
		20							

0：制度はあるが指定等のないもの　—：制度がないもの

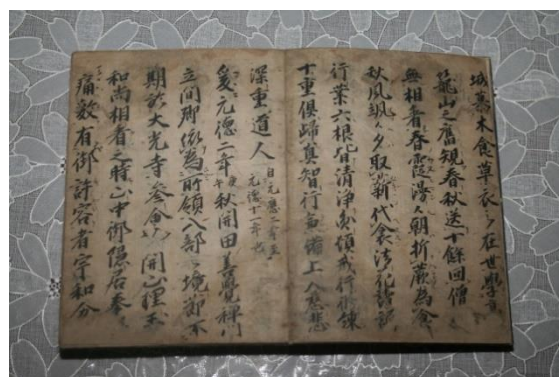
■ (1) 有形文化財

国指定文化財として、明治15年(1882)建築の擬洋風学校建築である旧開明学校校舎¹、住職寂証が至徳3年(1386)に筆録し享徳3年(1454)に秀栄が書写した紙本墨書齒長寺縁起があります。県指定文化財には、鎌倉中期(13世紀半ば)の等身大の像で平成30、31年度(2018、19)に保存修理が実施された極楽寺木造阿弥陀如来坐像、熊野修験の道場として繁栄した明石寺所蔵の絹本著色熊野曼荼羅図、永禄12年(1569)に西園寺公次が願主となった三島神社金幣、南北朝から室町時代にかけての土地の権益関係などを示す嶋山菊池家文書などがあります。市指定文化財には、建造物に近世惣川の庄屋を務めた藩政時代の庄屋本宅や末寺56ヶ寺に及ぶ曹洞宗総持寺派中本山の龍澤寺、大洲藩鳥坂口留番所などがあります。美術工芸品では、山田薬師の本尊で平安中期の木造薬師如来坐像、西明寺木造十一面観音菩薩立像及び脇侍、中世に九州で書写され藩政期に三瓶にもたらされた地福寺大般若経、多田地域を治めた宇都宮宣綱所用と伝わる陣旗、江戸時代の山境争論に用いられた木彫りの立体地図などがあります。

なお、建造物(石造物含む)の44%が宇和にあり、前述の旧開明学校校舎や旧宇和町小学校第1校舎など近世近代から現代にいたるまでの学校建築のほか、四国八十八箇所霊場第43番札所明石寺の建造物などが特徴的です。美術工芸品も半数以上が宇和に集中し、なかでも中広銅矛、平形銅剣、蕨手刀など考古資料が多い点が特徴的です。



旧開明学校校舎



紙本墨書齒長寺縁起



蕨手刀



龍澤寺

¹ 附銘札1枚。

■ (2) 無形文化財

記録作成等の措置を講ずべき無形の文化財として泉貨紙があります。終戦後の紙漉き農家戸数は30戸ありましたが、昭和40年頃には4戸に減少し、昭和43年には1戸のみとなりました。現在、野村町高瀬の菊地製紙が、伝統的な泉貨紙を製作しています。



泉貨紙製造技術者 菊地孝

■ (3) 民俗文化財

民俗文化財では、県内に5座ある文楽のうち、西予市内にある俵津文楽と朝日文楽の2座がいずれも県指定無形民俗文化財で、両座の人形頭・衣裳・道具一式は県の有形民俗文化財に指定されています。

有形の民俗文化財では、明浜にある江戸後期～近代の3基の鯨塚、若宮神社の河童の狛犬、宇和町小原の五つ鹿の南予最古の鹿頭などが特徴的なものです。

無形の民俗文化財は、野村、城川に6割以上が存在します。記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財として、伊予の茶堂の習俗、窪野の八つ鹿踊り、城川遊子谷の神仏講の習俗があり、県指定には土居の御田植行事（休止中）や遊子谷の七鹿踊りなど²があります。このほか、市指定の花取り踊りや念仏踊り（楽念仏）なども山間部に特徴的で、城川の実盛送り¹は茶堂を利用した年中行事の一つです。一方海岸部では、賀茂神社宵宮の潮垢離や春日神社のお船練り、渡江の竹網など海に関連するものが見られるほか、渡江や皆江の歌舞伎くずし盆踊りなどが知られています。牛鬼や鹿踊り、神輿など南予地方の秋祭りによくみられるいわゆる練りは市全体に分布しています。



河童の狛犬



土居の御田植祭り

² 窪野の八つ鹿踊りは県無形民俗文化財にも指定されています。



実盛送り



賀茂神社宵宮の潮垢離

■ (4) 記念物

記念物のうち史跡では、国史跡として八幡浜街道笠置峠越や伊予遍路道（明石寺境内、大寶寺道）が、県史跡として古墳時代前期の前方後円墳である笠置峠古墳や、縄文時代の石器製作址である中津川洞穴遺跡などがあります。市史跡は宇和に4割弱、野村・城川を含めると9割が集中しており、後者では山城が多く指定されています。

名勝では、県名勝の三滝城跡³、市名勝の桂川溪谷、樽滝は山間部の地形との関わりが深いものです。

また、天然記念物も山間部に多く、県指定として小屋の羅漢穴、ゴトランド紀石灰岩、田穂の石灰岩、市指定に穴神鍾乳洞、黒瀬川鍾乳洞、トゥファなどカルスト地形に関するものが多い点が特徴的です。



笠置峠古墳

³ 三滝城跡は県の史跡にも指定されています。

■ (5) 文化的景観

宇和海狩浜の段畑と農漁村景観は、平成31年(2019)2月に重要文化的景観に選定されました。宇和海沿岸で漁業と農業を営み続けてきた景観地で、宇和海、生業の履歴を今に伝える建造物や秋祭りが特徴的な居住域、石灰岩を主とする石垣で築かれた段畑、山林が連なり、四国西南部のリアス海岸における土地利用を示しかつ地形や地質に応じた斜面地農業の展開を伝える事例として貴重であると評価されています。



宇和海狩浜の段畑と農漁村景観

■ (6) 伝統的建造物群

西予市宇和町卯之町伝統的建造物群保存地区は、平成21年(2009)12月に重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。中世に宇和盆地を支配した西園寺氏の城下町が現在地に移され、宇和島藩の在郷町として、大洲藩と宇和島藩を結ぶ街道の宿場町として、また明石寺の門前町として発展しました。松葉町と称したこの町は遅くとも17世紀末頃には計画的な地割によって形成されたことがうかがえ、やがて卯之町と呼ばれるようになりました。天保期の卯之町全景図(市指定)には、武士、商人、僧侶、遍路などが行き交う様子が描かれ、町の性格をよく表しています。シーボルトの高弟・二宮敬作が開業したことでも知られ、敬作の薫陶を受けた若者たちは、その後の近代の行政、産業、教育の発展に尽力しました。申義堂、開明学校、卯之町幼稚園などの教育施設のほか、光教寺、末光家住宅なども含まれます。



西予市宇和町卯之町伝統的建造物群保存地区

2. 未指定文化財の概要と特徴（巻末資料4参照）

未指定文化財の件数は、表9のとおりです。有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群という6類型に分類されるものが564件あり、周知の埋蔵文化財包蔵地を含めると906件となります。

■ (1) 有形文化財（建造物）

海岸部では、中世の阿蘇溶結凝灰岩製石造物（アジロの層塔）、近代の尾道石工による花崗岩製石造物などの石造物が、海を介した九州・瀬戸内との交流を示し、俵津隧道は近代の海岸部と宇和盆地との交通の発達を示します。高山に残る石灰鉱山跡地や石灰窯群は、石灰産業の象徴的な存在です。宇和盆地では、県内最古級の明石寺五輪塔、江戸期の庄屋屋敷群のほか、西山田稚蚕共同飼育場をはじめとする養蚕関連遺産が知られています。終戦間際、宇和盆地には陸軍の飛行場が建設されており、これにつながる永長の兵隊橋などは戦争遺跡として貴重です。山間部では、鹿野川ダム建設後川底に沈み渇水期にのみ現れる船戸川橋、急流を利用した惣川発電所などの近代化遺産があります。このほか、伊予で活躍した周防大島のいわゆる長州大工の手による寺社建築が、市内山間部に残されています。

第2章 西予市の文化財の概要と特徴

表9 未指定文化財の件数（令和5年3月現在）

区分／種別		件数	区分／種別		件数	
有形文化財	建造物	126	民俗文化財	有形の民俗文化財	26	
	美術 工芸品	絵画		6	無形の民俗文化財	121
		彫刻	33	記念物	遺跡（史跡）	83
		工芸品	4		名勝地（名勝）	19
		書跡・典籍	4		動物、植物、地質鉱物 （天然記念物）	46
		古文書	47	文化的景観		4
		考古資料	32	伝統的建造物群		4
		歴史資料	9			
	無形文化財		0			
小計					564	
周知の埋蔵文化財包蔵地					342	
計					906	

■ (2) 有形文化財（美術工芸品）

絵画では中世の明石寺十六善神像、彫刻では山田薬師の銅造誕生仏、明石寺の木造不動明王立像、毘沙門天立像、二十八部衆、西明寺や長善寺の中世の神仏像などがあります。古文書には、藩の漁業改革を通知した引付状、近代の漁場図や漁業鑑札など漁業に関するもの、秀吉の天正検地について記した真土亀甲家文書、白髭三島神社棟札や藤堂高虎の銘のある野村三島神社の棟札などが残ります。考古資料は、久枝大窪台出土の広形銅矛、坪栗遺跡出土木製品や異体字銘帯鏡、安養寺裏山古墳出土の方格 T 字鏡、伝伊勢山大塚古墳出土陶質土器、中津川洞穴遺跡の縄文時代の人骨、穴神洞遺跡の縄文草創期の隆起線文土器、貝製装飾品など豊富にあります。

■ (3) 民俗文化財

有形の民俗文化財には、海岸部に近代農漁村の現金収入となった狩江縞の見本や機、垣生縞、金剛寺の鯨の位牌などのほか、明浜歴史民俗資料館所蔵の漁具、石灰産業関係資料があります。明浜歴史民俗資料館、宇和民具館、宇和米博物館、城川歴史民俗資料館所蔵の民俗資料もあります。このほか、^{おと}乙亥相撲の化粧まわし、遊子谷の神仏講の習俗用具などがあり、最近三瓶町蔵貫では、江戸時代に制作され明治期に修繕されたと思われる蔵貫村の五つ鹿の頭が発見されています。

無形の民俗文化財としては、朝立、蔵貫浦、周木などにみられる唐獅子は西宇和地方や宇

和島に見られ、市内では三瓶に特有のものといえます。念仏の口開けと称される1月16日に、永長地区では藁で編んだ高さ1.5mほどの大草履をかつての村境である永長橋にかけます。鬼の金剛とも言われ、南予では村境に草履を吊るす風習があります。また、旧暦10月の亥の日に各戸を回る亥の子もよく知られています。石城地区の亥の子には、亥の子石ではなく藁を束ねて小縄で巻いた藁すぼが使用されます。藁を乾燥・貯蔵するために水田に積まれた「わらぐろ」は、かつて宇和盆地の風物詩であり農村文化の象徴的存在でした。機械化に伴いほとんど目にすることはなくなりましたが、有志により一部で作られており、近年ではその技術を応用した通称「わらマンモス」が宇和盆地を訪れる人の目を楽しませてくれています。

このほか、郷内七福神踊り、明石寺追山行事、輪抜け（夏越祭）、麦祈祷、稲祈祷、池干し、大安楽寺の蛇霊供養、念仏講、念仏踊り、茶湯、虫送りなどの年中行事や祭りも遺されています。江戸期に火鎮祈願で始まった乙亥相撲は現代も町の一大イベントとして知られ、大野ヶ原龍王神社の春祭りには漁業関係者が大勢集まります。



宇和盆地のわらぐろ



かつての乙亥大相撲

■ (4) 記念物

遺跡には、縄文時代のタカシロ岩岩陰遺跡、近年発見された前期前方後円墳のムカイ山古墳、中期の岩木赤坂古墳、古代の西ノ前遺跡や大久保遺跡、福吉窯跡などがあります。また、中世山城の代表格である松葉城、黒瀬城も将来的には調査が必要です。このほか、近世では狼煙場の可能性がある明浜の火山遺跡や九十九曲峠越などの峠道、近代のものとしては戦時中の敵機の監視を担った戦争遺跡である三瓶の防空監視哨などがあります。防空監視廠は、現在の市立宇和病院付近や城川の甲ヶ森城にも置かれていました。このほか龍王山鉦山（マンガン鉦）、籠谷川ほかの砂防堰堤群などがあります。

名勝地では、明浜の野福峠、三瓶の寝観音があります。山間部では坂石湖水のほか、樽の滝、轟々淵、江戸淵、嘉喜尾の鳴滝など地形に由来するものが多くあります。

動物・植物・地質鉱物では、大野ヶ原のカルスト台地やブナの原生林、竜王洞などがあります。

■ (5) 文化的景観

文化庁の農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究報告書において⁴、「城川町の茶堂と山村」、「大野ヶ原のカルスト地形と牧草地」が重要地域に、「窪野の岩上田」と「堂の坂の棚田」が2次調査の対象地域となっています。「城川の茶堂と山村」は、茅葺又は瓦葺きの茶堂と一体をなす周辺の棚田や山村の風景が良好に保全されています。大野ヶ原は標高970m～1,400m、総面積約740haの大草原で、四国カルストの独特の自然環境のもと人為的に拓かれた牧草地と放牧された牛の群れが調和的に展開する点に特徴があります。

■ (6) 伝統的建造物群

伝統的建造物群には、江戸後期から近現代にかけての石灰産業で発展した明浜町高山の町並み、肱川舟運の河港である野村町坂石の町並み、櫛原街道を通じた土佐との交流で発展した野村町惣川の町並み、同じく九十九曲峠などを介した土佐との交流で主に近代に栄えた城川町土居の町並みなどがあります。

■ (7) 周知の埋蔵文化財包蔵地

西予市には周知の埋蔵文化財包蔵地が342か所あります。これは南予全体の3割近くを占め、南予の市町では最多を誇ります。市内では宇和に7割強が集中しており、古墳31.3%、城館跡29.2%、散布地24.2%、祭祀遺跡・経塚10%と、他地区に比べ多様な種類の包蔵地があることがわかります。弥生時代、古墳時代、古代の包蔵地も南予で最も多いという事実も、宇和盆地の性格を語るうえで重要です。

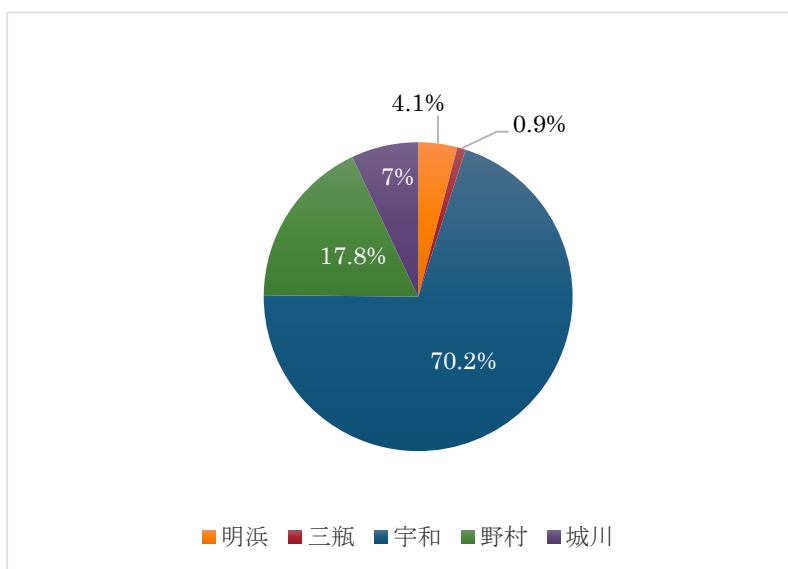


図16 西予市の地区別包蔵地数

⁴ 文化庁文化財部記念物課 2005『農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究報告書』文化庁文化財部記念物課

第2章 西予市の文化財の概要と特徴

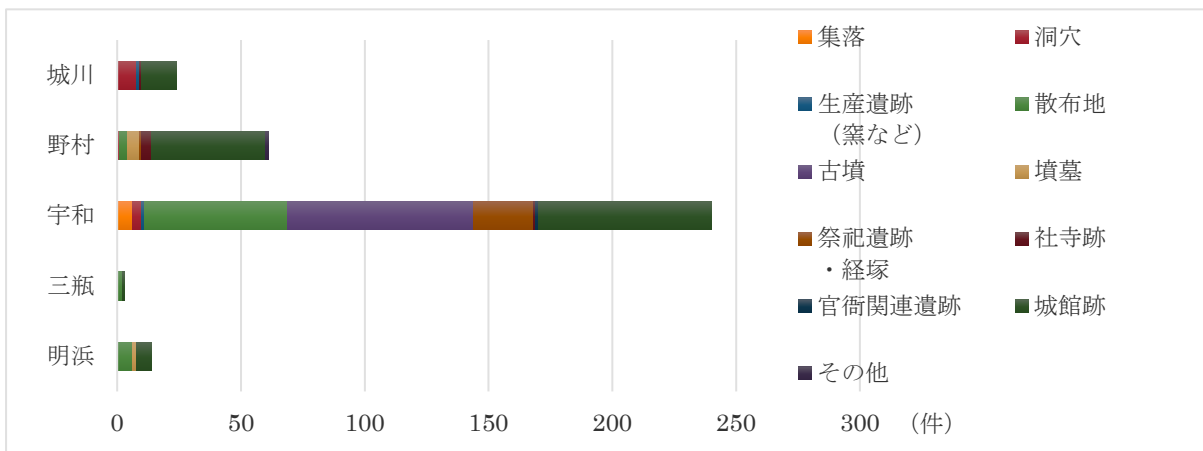


図17 西予市各地区における包蔵地の種別

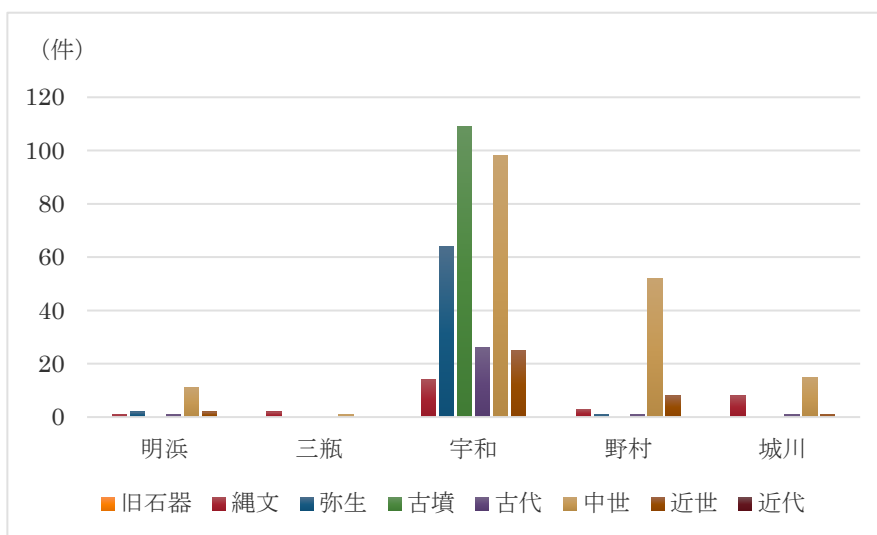


図18 包蔵地の所属年代